

医学教育分野別評価 新潟大学医学部医学科 年次報告書 2026年度

評価受審年度 2022（令和4）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36

はじめに

新潟大学医学部医学科は、2022年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2023年2月1日より6年間の認定期間が開始した。評価結果のうち、特に部分的適合と評価された項目を中心に、次の受審までに改善に努める予定である。今回、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36を踏まえ、2026年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2025年4月1日～2026年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36の転記は省略した。

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学生行動規範をカードとして学生および教員に配付するのみでなく、学生便覧などの規程集に収載すべきである。	
現在の状況	
学生行動規範を学生便覧に掲載した。	
今後の計画	
学生行動規範について規程集への掲載を継続する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1 学生便覧	
資料2 学修成果(教育理念カード)	
資料3 アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
「新潟大学臨床研修病院群研修プログラム」の到達目標と医学部医学科のアウトカム（コンピテンス）を、実質的に関連づけることが望まれる。	
現在の状況	
研修プログラムの到達目標と医学科のアウトカムとの整合性を確認するため、病院・医学科間の実務者会議を実施した。	

今後の計画
新潟大学医歯学総合病院の臨床研修センターとのミーティングを継続し、学修成果を引き続き関連づけていく。
現在の状況を示す根拠資料
資料2 学修成果(教育理念カード)
資料4 アウトカム達成度調査
資料5 新潟大学医学部のカリキュラムツリー・マップ
資料6 新潟大学臨床研修病院群研修プログラム
資料7 医学科と臨床研修センターのミーティング記録

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
使命と学修成果の策定には、地域医療の代表者、医療関連行政組織、専門職組織、医学学術団体などを含めた広い範囲の教育関係者からの意見を聴取することが望まれる。	
現在の状況	
使命と学修成果については、現時点で変更の予定がないため、これに関しての広い教育関係者からの意見聴取の機会は設定していない。	
今後の計画	
使命と学修成果の改訂の際には、行政職員、地域住民など幅広いステークホルダーの参画を予定する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料8 医学部教授会議議事要旨(教育理念と教育目標が策定されたときのもの2010年)	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 教育プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
- 学修意欲を刺激するための教授方法/学修方法をより積極的に導入するために、能動的教育を充実すべきである。 - 臨床実習において、e-ポートフォリオの利用をさらに推進して、学生の学修意欲を刺激するカリキュラムを確実に実践すべきである。 - シラバスの形式を統一して、学修成果基盤型教育の枠組みに基づいて記載すべきである。	
現在の状況	
低学年における学修意欲を刺激するため、2年次に障害者施設、高齢者施設や特別支援学校での実習を導入し、3年次には訪問看護ステーションでの実	

習を導入した。 ・ 臨床実習における自己学修履歴の作成に新しい e-ポートフォリオの使用を開始している。 ・ シラバスを紙媒体から電子ファイルでの作成に変更した。生成 AI の使用基準を記載するなど形式の統一化を図っている。
今後の計画
・ 令和9年度からカリキュラム改変を行い、臨床実習の早期開始と診療科の選択による参加型臨床実習の期間延長を行う予定。 ・ シラバスの電子化と統一形式の導入を進める。 ・ 参加型臨床実習に LIC の導入を検討する。
現在の状況を示す根拠資料
資料2 学修成果(教育理念カード) 資料3 アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー 資料5 新潟大学医学部のカリキュラムツリー・マップ 資料9 1～6学年のカリキュラム概要 資料10 e-ポートフォリオ資料・臨床実習評価票 資料11 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム評価委員会議事概要) 資料12 主要な教務関係委員会の議事録(医学科学務委員会議事概要) 資料13 医学入門シラバス 資料14 臨床実習シラバス

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・ 診療参加型臨床実習の中で、EBM の教育をより確実に実施すべきである。	
現在の状況	
・ 1 年次では EBM の基礎的な演習を実施している。 ・ 臨床実習において担当症例とその疾患に関連するテーマについて深掘りし、診断や治療法を EBM に基づき検討・実践することを学習している。 ・ 診療参加型臨床実習では、担当症例とその疾患について掘り下げた内容をまとめて報告会で提示させる。この思考過程において、指導医による EBM の教育を行っている。	
今後の計画	
・ 医学論文や診療ガイドラインを参照し、診療を実践することの重要性についての学習・教育を推進する。 ・ 臨床実習の開始時期を早め、臨床実習中に講義週間を設けることにより、自習内容に合わせた EBM 教育の充実を図る。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料15 1～6学年の教育要項(シラバス) 資料16 新潟大学附属図書館ホームページ(資料の検索、分野別情報検索)・EBMに基づく診療活動支援資料	

資料17 EBMに基づいた学習内容発表(臨床実習Ⅰ)

資料18 1年次「医学入門」資料

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
- 行動科学は、2年次を除いてオムニバス形式のカリキュラムが主であり、臨床実習を含め、全学年を通じた体系的なカリキュラムとすべきである。 - 医療倫理学および医療法学についても体系的なカリキュラムとし、臨床実習においても実践できるようにすべきである。	
現在の状況	
- 医学教育センターの精神科医と精神科教授が行動科学教育を統括し、行動科学が6年間らせん型で体系的に教育されるカリキュラムを実践している。 - 医療倫理学および医療法学については1年次に実施されており、医療法学は4年次にカリキュラムが定められ実践されている。医療倫理学は2年次でも授業を開始した。	
今後の計画	
- 全人的医療・地域医療・プロフェッショナリズムを支える基盤として行動科学や社会医学を途切れなく継続的に学習するカリキュラムを作成する。具体的には1年次、2年次、4年次に実施されているが、令和8年度は3年次でも行動科学を実施する。新しい臨床実習では、臨床実習中にも行動科学を学ぶ機会を設ける予定としている。 - 令和8年度より1年次、4年次の他、3年次にも医師法、医療法、介護保険法など医療に必要な法律について学ぶこととなっている。医療倫理学は1年次、2年次の他、令和8年度より3年次でも実施する。臨床実習を実施している各診療科において、実習を通して医療倫理学および医療法学についても体系的に学ぶ体制を構築していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料5 新潟大学医学部のカリキュラムツリー・マップ	
資料15 1～6学年の教育要項(シラバス)	
資料19 2年次「基礎臨床統合」資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
医療倫理学および医療法学において、将来的に必要なになると予測されることについて、情報の収集に留まらずカリキュラムを調整することが望まれる。	
現在の状況	

- 行動科学、社会医学、医療倫理学および医療法学に関して、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること、人口動態や文化の変化について、在日外国人の増加による問題に着目し、在日外国人対応の「やさしい日本語」の演習を2年次に開始した。 - 総合的に患者・生活者をみる姿勢がモデル・コア・カリキュラムに追加されており、特にこの部分に対応する社会医学的な学修について、1年次の医学入門にて医療人類学者を招いて「生活者をみる」ための授業を実施したが、2年次に「障害者体験」を含めた医療人類学の授業をさらに追加した。
今後の計画
- 臨床実習の開始時期を早め、臨床実習中に講義週間を設け、医療安全教育、医療倫理教育の充実を図る。 - 医療倫理、医療法学として将来的に何が必要となるのか、さらに検討を重ねる。
現在の状況を示す根拠資料
資料15 1～6学年の教育要項(シラバス)

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
- 内科以外の主要な診療科においても診療参加型臨床実習を経験するために、連続した十分な期間を全学生に確保すべきである。 - 主要な診療科において実質的な診療参加型臨床実習とするために、十分な患者数と疾患群を経験できる教育プログラムにすべきである。	
現在の状況	
学生へのアンケートにより、経験した疾患や手技などを把握し、過不足のある分野については改善を進めている。	
今後の計画	
臨床実習において全診療科をローテートするこれまでの方式を改め、主要診療科以外を選択制とすると同時に、外科系を3週間集中的に実習する期間を設ける計画。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料5 新潟大学医学部のカリキュラムツリー・マップ 資料14 臨床実習シラバス 資料15 1～6学年の教育要項(シラバス) 資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果 資料21 新潟大学医学部臨床実習評価資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
-------------------	--------------------

質的向上のための水準 判定：部分的適合
改善のための示唆
- 全ての学生が早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めていくことが望まれる。 - 臨床実習前の臨床技能教育を、より充実させることが望まれる。
現在の状況
1 年次から 3 年次までの臨床実習開始前の学年においても、早期医学体験実習を取り入れ、患者と接する機会を確保している。 - 臨床技能教育としては、1 年次で模擬患者さんとのコミュニケーションの実習を実施、2 年次では BLS の実習を開始した。3 年次で医療面接実習、腹部エコーの実習、皮下注射、筋肉注射の実習を継続している。
今後の計画
4 年次の臓器別講義の終了時期を前倒しして、臨床技能実習の時間を拡大する。
現在の状況を示す根拠資料
資料5 新潟大学医学部のカリキュラムツリー・マップ 資料10 e-ポートフォリオ資料・臨床実習評価票 資料12 主要な教務関係委員会の議事録(医学科学務委員会議事概要) 資料15 1～6学年の教育要項(シラバス)

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
「基礎臨床統合Ⅱ」、「統合臨床医学」以外の教育においても、基礎医学、社会医学、臨床医学を含めて垂直的統合教育をより積極的に導入することが望まれる。 - 補完医療との接点をより多く持つことが望まれる。	
現在の状況	
2 年次において、新たに臨床基礎医学の授業を開始して、垂直統合をはかっている。 - 補完医療についてはすでに実施している。	
今後の計画	
基礎臨床垂直統合の授業の取り組みを進め、基礎系の講義に連続して関連する分野の臨床系教員による講義を行い、基礎と臨床の架け橋の構築を図る。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料5 新潟大学医学部のカリキュラムツリー・マップ 資料11 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム評価委員会議事概要) 資料15 1～6学年の教育要項(シラバス) 資料22 3年次「医学研究実習」資料 資料23 2年次「基礎臨床統合」4年次「多職種連携」資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラムの立案と実施を担当する委員会に、教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。	
現在の状況	
- カリキュラム委員会は、全分野の教育担当者と学生から構成されているが、学外の有識者にも参加してもらえるように内規を修正し、幅広い教育の関係者からの意見を聴取した。 - カリキュラムの実施を担当する学務委員会にも学生が参加するようになった。	
今後の計画	
学務委員会に今後も幅広い教育の関係者（学外の識者など）を含めるように検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料24 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム委員会内規)	
資料25 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム委員会議事概要)	
資料26 教務関係委員会名簿(医学科カリキュラム委員会名簿)	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
卒業生が働く医療機関などからの情報を系統的・計画的に収集して、教育プログラムの改善に役立てることが望まれる。	
現在の状況	
臨床実習Ⅱでは学外施設の病院長などが参加する連絡会を定期的で開催しており、卒業生の状況について非公式に情報を収集しているが、系統的、計画的な情報収集及び、プログラムへの反映はなされていない。	
今後の計画	
- より系統的なFDを行えるように、それぞれの医療機関との連携体制を強化していくことを計画する。 - 卒業生が比較的多数就職している医療機関を抽出し、卒業生の現状について系統的、計画的に情報を収集することを計画する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果	
資料27 臨床実習Ⅱ臨床教育協力施設との連絡会資料	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
- 臨床実習Ⅰについて、診療科ごとの評価項目、評価法等の情報をシラバスに記載すべきである。 - 態度の評価にあたって評価方法と基準を適切に設定し、評価を確実に実施すべきである。 - 評価における利益相反に関する規程を明確に定めるべきである。 - 卒業試験だけでなく、すべての試験において、外部の専門家による精密な吟味を行うべきである。	
現在の状況	
- 臨床実習Ⅰについて、診療科ごとの評価項目、評価法などの情報をシラバスに記載した。 - 態度については臨床実習において学生との間で、臨床実習において無断の遅刻、欠席、離席についてはアンプロフェッショナルな行為であることを確認し、シラバスおよび臨床実習誓約書に記載した。 - それ以外の態度の評価にあたっては、各診療科において何が態度において評価されるべきなのかが規定されており、それぞれに評価されている。医師になるものとして不適切な態度であると判断されたときには「イエローカード」が出されることとなっており、イエローカードが出された学生については学務委員会委員が面談の上指導を実施し、その後の実習態度についてフォローしている。 - 教員の子弟が本学の学生であるなど、教員と学生が利害関係者だった場合の評価についての規約を制定した。	
今後の計画	
アンプロフェッショナルな行為についてはすでにシラバスに記載されており、引き続き学生に周知徹底を図る。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1 学生便覧 資料2 学修成果(教育理念カード) 資料4 アウトカム達成度調査 資料5 新潟大学医学部のカリキュラムツリー・マップ 資料10 e-ポートフォリオ資料・臨床実習評価票 資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果 資料21 新潟大学医学部臨床実習評価資料 資料28 新潟大学医学部規程 資料29 進級基準、卒業基準 資料30 新潟大学医学部OSCE実施要項(学生用・運営関係者用) 資料31 新潟大学医学部CBT本試験実施マニュアル(学生向け・教職員向け) 資料32 新潟大学医学部Post-CC OSCE実施要項(学生用・運営関係者用) 資料33 6年次分野別試験(卒業試験)の検証	

資料34	医学科専門教育に関する授業科目に係る成績評価に対しての不服申立て等に関する要項
資料35	Gコード科目に係る成績評価に対しての不服申立て等に関する要項
資料36	新潟大学医学部医学科医学教育における利益相反に関する指針・利益相反申告書

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
- 臨床実習での評価も含め、筆記試験以外の評価法についても信頼性と妥当性を検証し明示することが望まれる。 - e-ポートフォリオ、mini-CEX、360 度評価、SEA などの新しい評価法を、より積極的に活用することが望まれる。 - 外部評価者の活用をより積極的に進めることが望まれる。	
現在の状況	
- 共用試験 CBT および OSCE については、評価の信頼性と妥当性がすでに担保されている。多肢選択式問題を用いる臓器別科目試験（マークシート試験）、分野別試験（卒業試験）、一部基礎系科目では識別指数と判別係数を明示するなど、信頼性・妥当性は十分に検討されている。 - e-ポートフォリオは臨床実習の学修履歴の把握に導入され、それについての評価が始まっている。臨床実習では形成的評価として mini-CEX、360 度評価、SEA を一部の診療科で行っている。 - 医学部は 4 年次に実施している共用試験 CBT および OSCE、6 年次に実施している Post-CC OSCE については、評価が外部の専門家によって精密に吟味されたうえで担当教員が評価を行っている。	
今後の計画	
- 臨床実習前、後の OSCE においては評価者標準化のための FD を引き続き実施し、信頼性向上に努める。 - mini-CEX、360 度評価、SEA などの新しい評価法は一部で導入されており、他の診療科にも導入をうながしていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 5 新潟大学医学部のカリキュラムツリー・マップ	
資料10 e-ポートフォリオ資料・臨床実習評価票	
資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果	
資料21 新潟大学医学部臨床実習評価資料	
資料30 新潟大学医学部OSCE実施要項(学生用・運営関係者用)	
資料31 新潟大学医学部CBT本試験実施マニュアル(学生向け・教職員向け)	
資料32 新潟大学医学部Post-CC OSCE実施要項(学生用・運営関係者用)	
資料33 6年次分野別試験(卒業試験)の検証	
資料37 6年次分野別科目試験・臓器別科目試験の日程とマークシート試験	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
- コンピテンシーの各項目について、学生による自己評価と他者評価を確実に 行い、個々の学修成果の達成度を評価すべきである。 - 学生の学修を促進する評価について、多様な方法をより幅広く検討すべきで ある。 - 形成的評価の実施状況を医学科として把握し、総括的評価との適切な比重を 定めるべきである。	
現在の状況	
- コンピテンシーの各項目について、学生により自己評価は実施されている。 - 学生の学修を促進する評価として、例えば CBT 成績下位の学生についての形 成的評価を実施し、学生の学修を促進している。 - 形成的評価はそれぞれの教室で実施しているが、非公式に実施されている場 合もあり状況については十分に把握できていない。総括的評価との適切な比 重については検討されていない。	
今後の計画	
- コンピテンシーの各項目について、学生による自己評価は行われており、他 者評価をどのように実施するかについては今後検討していく。 - 学生の学修を促進する評価について、多様な方法を今後カリキュラム委員会 で検討してゆく。 - 形成的評価の実施状況についてはまだ完全には把握できておらず、引き続き 状況把握に努める。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2 学修成果(教育理念カード) 資料4 アウトカム達成度調査 資料5 新潟大学医学部のカリキュラムツリー・マップ 資料10 e-ポートフォリオ資料・臨床実習評価票 資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果 資料21 新潟大学医学部臨床実習評価資料 資料38 学生面談資料(面談実績) 資料39 学生面談資料(CBT成績不良者)	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
- 学生に対する評価については、適切なフィードバックの方法を検討し、より 積極的に実施することが望まれる。 - e-ポートフォリオなどを有効に活用し、臨床実習においてフィードバックを	

充実させることが望まれる。
現在の状況
- 学生に対して、学修過程で、学生の向学心を高めるフィードバックを充実させるため、形成的評価の利用を推進している。例えば、1 年次の早期医学体験実習やフィールドワークにおける提出物について、個人に形成的評価を実施している。また 2、3 年次授業担当教員意見交換会で確認したところ、レポートやスケッチ等の「授業途中での評価」を導入している分野は、およそ 7 割を占めている。 - e-ポートフォリオで収集した臨床実習の学習成果については、個々人に 1 年間の学習成果を可視化できるように返却し、自己省察の時間をカリキュラムとした。
今後の計画
- 学生に対する形成的評価については、すでにレポートなどで適切なフィードバックが実施されているが、様々な場面で積極的に実施するための方策を今後検討する。 - 臨床実習におけるフィードバックの充実についてはさらに検討を重ねる。
現在の状況を示す根拠資料
資料10 e-ポートフォリオ資料・臨床実習評価票 資料40 学生へのフィードバック

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。	
現在の状況	
- 入学決定に対する疑義申し立て制度について検討を行い、全学での制度導入を大学本部に要望した。 - 医学科入試委員会、全学入試委員会、医学科教授会にてアドミッション・ポリシーについて再度検討を行い、アウトカムに沿った文言の修正や追加などの検討を行っている。 - 学校推薦型選抜入学試験における小論文の導入について引き続き検討を行っている。 - 学校推薦型選抜入学試験の地域枠における募集人員の内訳について 2026 年度入試（2025 年度実施）より高等学校の所在地による内訳を撤廃した。 2027 年度入試（2026 年度実施）より医学部医学科の募集人員について一般選抜（前期日程）80 人を 70 人に変更し、その変更分の 10 人を学校推薦型選抜（地域枠）に移すことにした。 - 研究医養成枠の導入を検討している。	
今後の計画	
学校推薦型選抜入学試験における状況判断面接の効果、意義について適切な時期に行う。	

学校推薦型選抜入学試験における小論文の導入について引き続き検討を行う。
現在の状況を示す根拠資料
資料3 アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー
資料41 新潟大学入学選抜要項
資料42 入学選抜に関するデータ
資料43 入試に関する情報開示(試験成績)

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.4 学生の参加
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
使命の策定、教育プログラムの管理、その他の学生に関する諸事項を扱う委員会には、学生の代表を加え、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。	
現在の状況	
- 教育プログラムを策定するカリキュラム委員会および現行カリキュラムの検討を行うカリキュラム評価委員会に各学年の学生代表が参加し、議論に加えることができるように規定が整備され履行されている。 「クラス幹事(学年代表学生)懇談会」をカリキュラムの実施・管理を行う学務委員会として開催するように整備し、学生の要望事項等への議論に各学年の学生代表が参加している。	
今後の計画	
今後、使命、学修成果の見直しの際には学生の代表を加える予定としている。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2 学修成果(教育理念カード)	
資料24 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム委員会内規)	
資料26 教務関係委員会名簿(医学科カリキュラム委員会名簿)	
資料44 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム評価委員会内規)	
資料45 教務関係委員会規則・内規(医学科学務委員会内規)	
資料46 5年次・6年次学生からの学習室24時間開放の要望書・使用心得	
資料47 教務関係委員会名簿(医学科カリキュラム評価委員会名簿)	
資料48 クラス幹事懇談会議事録	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
教員の教育業績においては、量的評価だけでなく質的評価を明確な基準を設けて実施すべきである。	

- 個々の教員がカリキュラム全体を理解した上で教育を担当しているかを確認し、教員の教育能力の開発のため、新任教員 FD などを含めた系統的・計画的な取り組みを実施すべきである。 - 教員のアンプロフェッショナルな行為について、適切に対応する方針を定めるべきである。
現在の状況
- 教員の講義は学生アンケートにより評価されているものの、教員の教育業績における質的評価については明確な基準はない。 - 新任教員 FD は大学本部が対応して行っている。医学部では、全教員懇談会が教員 FD の場であり（参加チェックあり）、医学教育センターも独自に FD を実施している。 - 教員のアンプロフェッショナルな行為については執行部で随時対応している。
今後の計画
- 教員の教育業績の質的評価の基準について、どのような項目を含めるべきなのかを検討する。 - 各分野の医学教育分野部会を利用して、どのようにカリキュラム全体の理解を行うかを検討する。 - 教員のアンプロフェッショナルな行為に対する方針案を作成する。
現在の状況を示す根拠資料
資料25 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム委員会議事概要)
資料49 新潟大学医学部FD資料
資料50 新潟大学教育職員の教員個人別評価実施要領・資料

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
- 学生が適切な臨床経験を積めるように、個々の学生が経験する患者数と疾患分類をより確実に把握して、臨床実習施設を整備すべきである。 - 学生が common diseases を経験できる施設を、十分に確保すべきである。 - 系統的に指導者の能力開発を行い、臨床実習の質向上に資する指導医を確保すべきである。	
現在の状況	
- 現在、e-ポートフォリオにて臨床実習における学生の臨床経験の把握を行っている。 - 臨床実習施設での患者数、疾患分類について調査しているところである。 - 臨床実習指導者に対しての FD は適宜実施されている。	
今後の計画	
- e-ポートフォリオで収集した臨床実習施設での疾患分類、患者数の調査を継続する。 - 臨床実習指導医のための FD についてさらに充実させる。	

現在の状況を示す根拠資料	
資料10	e-ポートフォリオ資料・臨床実習評価票
資料25	主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム委員会議事概要)
資料27	臨床実習Ⅱ臨床教育協力施設との連絡会資料
資料51	臨床教授等称号付与者
資料52	附属病院
資料53	令和7・8年度臨床教育協力施設情報一覧

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
臨床実習でEBMの活用や自己学習ができるような環境を整備すべきである。	
現在の状況	
- 学生のインターネットやその他の電子媒体へのアクセスは確保されている。 - EBMについては、Up To Dateが全学生に利用可能となっており、それについての講習などを周知している。 - 臨床実習の現場でもUp To Dateは使用可能となっている。	
今後の計画	
臨床実習におけるEBMの活用のための環境整備を継続する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料16 新潟大学附属図書館ホームページ(資料の検索、分野別情報検索)・EBMに基づく診療活動支援資料	
資料54 情報基盤センター規程	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
- 必要な時に教育専門家へアクセスできるよう、医学部内の教育専門家をさらに育成すべきである。 - 教育技法や評価方法の開発に教育専門家をより積極的に活用すべきである。	
現在の状況	
- 医療者教育学修士を取得している医学教育学会認定医学教育専門家を医学教育学分野教授として採用されている。 - これにより必要な時に医学教育専門家へのアクセスは実施できている。 - 教育技法や評価方法の開発に教育専門家が活用されている。	
今後の計画	
医学教育専門家を中心に医学部内の教育実践家を育成していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

資料49 新潟大学医学部FD資料

資料55 医学教育センター名簿

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
- カリキュラムの立案と実施を行う組織と評価する組織は互いに独立しているべきである。 - カリキュラムの遂行・改善に関わる各委員会の規程を見直し、各委員会の業務内容と権限を明確化すべきである。 - 学生による主観的な評価だけではなく、客観的な評価によって学修成果を継続的にモニタし、カリキュラムの課題を特定すべきである。 - 継続的な教育の質向上のため、カリキュラムとその構成要素の評価結果をカリキュラムに確実に反映させるべきである。	
現在の状況	
- カリキュラムの立案をするのはカリキュラム委員会、これを実施する組織は学務委員会、評価する組織はカリキュラム評価委員会であり、互いに独立している。 - カリキュラムの遂行・改善に関わる各委員会の規程や業務内容と権限について、繰り返し検討が行われている。 - 学修成果については主観的な評価に加え、客観的な評価を各種実施し、カリキュラムでの課題の特定に努めている。 - カリキュラム評価委員会は、カリキュラムとその構成要素につき全学生にアンケートを実施し、教育プログラムを評価する仕組みが構築されている。	
今後の計画	
- カリキュラムに関わる各委員会の規程改善を引き続き実施する。 - 学生の客観的な学習成果達成の評価方法を検討し、展開を目指す。 - 教育プログラム評価の結果に基づき、カリキュラム改善を検討する。 - 教員によるアウトカム達成度調査が未整備なため、カリキュラム委員会にてその方法論と卒業条件との関連付けなどにつき検討を始める。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料4 アウトカム達成度調査 資料11 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム評価委員会議事概要) 資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果 資料24 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム委員会内規) 資料25 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム委員会議事概要) 資料26 教務関係委員会名簿(医学科カリキュラム委員会名簿) 資料27 臨床実習Ⅱ臨床教育協力施設との連絡会資料 資料44 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム評価委員会内規) 資料45 教務関係委員会規則・内規(医学科学務委員会内規)	

資料47	教務関係委員会名簿(医学科カリキュラム評価委員会名簿)
資料55	医学教育センター名簿
資料56	医学教育センター設置要項
資料57	教務関係委員会名簿(医学科学務委員会委員名簿)
資料58	カリキュラム改変前の科目資料
資料59	新潟大学医学部医学英語カリキュラム資料

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
- カリキュラムの特定の構成要素について、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。 - 長期間で獲得される学修成果を収集・評価し、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。	
現在の状況	
- カリキュラム評価委員会では学生に対しアンケートを実施して、アンケート結果に基づき教育プログラムを評価している。 - アンケートのなかで学生が指摘した問題点はカリキュラム委員会へ上程され、検討と改善を進めるシステムが構築されている。	
今後の計画	
カリキュラム評価委員会とカリキュラム委員会の連携を通じ、カリキュラムを繰り返し評価していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2 学修成果(教育理念カード)	
資料4 アウトカム達成度調査	
資料11 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム評価委員会議事概要)	
資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果	
資料44 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム評価委員会内規)	
資料47 教務関係委員会名簿(医学科カリキュラム評価委員会名簿)	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生と教員から収集した意見を分析し、カリキュラム改善に役立てるべきである。	
現在の状況	
1年次の医学入門から6年次の集中講義・卒業試験までのカリキュラムについて学生アンケートを実施している。昨今普及が図られているオンデマンド	

授業については、その是非や活用法に関し、科目および実習診療科ごとに議論が重ねられている。 - アンケート結果は、学生委員も参加するカリキュラム評価委員会で審議され、カリキュラム委員会での検討事項となり、カリキュラム改変の検討材料となっている。 - カリキュラムに対しての教員からのフィードバックは十分得られていない。
今後の計画
アンケート結果を IR 部門で解析したうえでカリキュラム評価委員会にて審議し、カリキュラム委員会におけるカリキュラム策定の判断根拠とする。
現在の状況を示す根拠資料
資料11 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム評価委員会議事概要) 資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果 資料25 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム委員会議事概要) 資料27 臨床実習Ⅱ臨床教育協力施設との連絡会資料

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラムについてのフィードバックに基づき、より積極的に教育プログラムを開発することが望まれる。	
現在の状況	
現在の臨床実習では、令和4年度版医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠していない診療科があり、対応を行っていく。	
今後の計画	
学生も委員として参加するカリキュラム評価委員会にて現行カリキュラムを審議し、カリキュラム委員会に勧告するという循環を継続する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料11 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム評価委員会議事概要) 資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果 資料58 カリキュラム改変前の科目資料 資料59 新潟大学医学部医学英語カリキュラム資料	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生と卒業生の学修成果の達成状況を客観的に評価し、それを分析すべきである。	
現在の状況	

- 過去4年間の卒業生の研修先について、県内外別に調査している。 - 学生の学修成果の達成状況について客観的に評価している。
今後の計画
- 学生の学修成果の達成状況について、現在の指標以外に分析すべき項目があるかを検討する。 - 卒業生の実績について、調査および分析を計画する。
現在の状況を示す根拠資料
資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果 資料55 医学教育センター名簿 資料56 医学教育センター設置要項

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
- 卒業生の実績について継続的な分析を行い、責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。 - 医学部医学科 IR 室で得た学生の実績についての様々な分析結果を、カリキュラム立案に責任がある委員会にフィードバックすることが望まれる。	
現在の状況	
- 卒業生の実績についての調査は十分には実施されていない。今年度に整備完了の見通しとなった同窓会(新潟大学医学部学士会)連絡網の活用を検討している。 - IR で得られた学生の実績については分析の上、カリキュラム評価委員会に提示、カリキュラム評価委員会から立案に責任のあるカリキュラム委員会にフィードバックされている。特に、CBT、卒業試験、国家試験での成績の相関性を通じ、カリキュラムや講義内容の構成に生かしている。 - CBT 成績不良の学生や、留年者について、その背景因子について IR で検討を続けている。	
今後の計画	
卒業後の活躍について包括的な評価を検討し、参考となる事例を医学部ホームページなどで紹介する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料4 アウトカム達成度調査 資料5 新潟大学医学部のカリキュラムツリー・マップ 資料11 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム評価委員会議事概要) 資料12 主要な教務関係委員会の議事録(医学科学務委員会議事概要)	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.4 教育の関係者の関与
--------------------------	----------------------

質的向上のための水準 判定：部分的適合
改善のための示唆
他の医療職や患者など、広い範囲の教育の関係者から、卒業生の実績およびカリキュラムについてのフィードバックを系統的に求めることが望まれる。
現在の状況
新潟医療福祉推進会議メンバーの関与があるものの、他の医療職や患者など医師以外の視点によるフィードバックはその組織立てが必要である。
今後の計画
学外の広い範囲の教育関係者から地域枠以外の学生や卒業生に対してのご意見を聴取する機会を設ける。
現在の状況を示す根拠資料
なし

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.1 統轄
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会など、各組織の役割分担について整合性を明確にすべきである。	
現在の状況	
現在、学務委員会はカリキュラムの実施、カリキュラム委員会はカリキュラムの立案、カリキュラム評価委員会はカリキュラム自体の評価を行っており、その役割は明確である。	
今後の計画	
3つの委員会の決められた役割を明確にしつつ、各委員会の活動を継続し、それぞれが連携しながら、よりよい医学教育を提供する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料24 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム委員会内規) 資料44 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム評価委員会内規) 資料45 教務関係委員会規則・内規(医学科学務委員会内規) 資料56 医学教育センター設置要項 資料60 新潟大学医学部医学科教務関係委員会組織図	

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.1 統轄
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
医療関連行政組織や医学学術団体を含む広い範囲の教育の関係者からの意見を収集し、関係する委員会に反映させることが望まれる。	

現在の状況
- 新潟県地域医療対策協議会での医師確保対策などの議論について、適宜、教授会、学務委員会、入試委員会などで情報共有を行っている。また、新潟県福祉保健部長などが、教授会での現状の説明、全教員懇談会での講演を行い、今後の新潟県の地域医療を検討しながら、地域枠の定員数のあり方、適切な入試選抜方法などについて検討を継続している。 - 臨床実習について、関連病院の関係者と定期的な会議を持ち、また、新潟県・群市医師会とも相談しながら、そのあり方と課題についての議論を継続している。
今後の計画
引き続き、教授会、学務委員会、入試委員会などで新潟県保健福祉部などの行政組織や県・郡市医師会、関連病院などの関係者との意見交換を継続的に行う。
現在の状況を示す根拠資料
資料24 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム委員会内規) 資料27 臨床実習Ⅱ臨床教育協力施設との連絡会資料 資料44 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム評価委員会内規) 資料45 教務関係委員会規則・内規(医学科学務委員会内規) 資料49 新潟大学医学部FD資料 資料61 新潟大学教授会通則

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.2 教学のリーダーシップ
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
医学部の使命と学修成果に照合して、教学のリーダーシップの評価を定期的に行うことが望まれる。	
現在の状況	
医学部長のリーダーシップの評価は任用時に学長によって実施されている。	
今後の計画	
医学部の使命と学修成果の面から医学部でリーダーシップをとるメンバーの評価方法を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料62 医学部長選考結果	

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.5 保健医療部門との交流
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
保健医療部門との連携をより充実させることが望まれる。	

現在の状況
• 医学科（4年次）と保健学科（3年次）で多職種連携の演習を行っている。 • 小児科の臨床実習では、3歳児検診での実習や市の療育施設での実習を行い、保健師、行政の職員との交流を行っている。 • 富山大学と連携して、「臨床医学と社会医学を駆使して地域を守る医療人の育成」を開始し、北越地域医療人養成センターを立ち上げた。フィールドとする上越地域では、地域住民、行政、保健所等と連携して地域医療・保健を実践するカリキュラムで学生が学んでいる。
今後の計画
• 学生時代から、保健医療との交流をより積極的に行う。 • 引き続き、北越地域医療人養成センターの活動を継続し、総合診療などの観点も含めた保健医療部門との連携を推進する。
現在の状況を示す根拠資料
資料27 臨床実習Ⅱ臨床教育協力施設との連絡会資料 資料53 令和7・8年度臨床教育協力施設情報一覧 資料63 新医学セミナー資料 資料64 臨床実習協力医療機関等との協定書 資料65 令和7年度EME(早期医学体験実習)実習先一覧(1年生) 資料66 令和7年度医学研究実習配属先一覧(学内・学外)(3年生)

今後改善が見込まれる項目

9. 継続的改良	
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
• 医学部医学科 IR 室の機能をさらに充実させ、カリキュラム評価委員会を含めた教育組織との連携により、教育課程、学修成果、評価を定期的に見直し継続的改良を一層進めるべきである。 • 1巡目ならびに2巡目の医学教育分野別評価で指摘された事項については、今後継続的に改良を進めるべきである。	
現在の状況	
• カリキュラム委員会が中心となり、新しい医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応するカリキュラムの改定に取り組んでいる。 • 特に新しい臨床実習のカリキュラム改定に取り組んでおり、その骨子ができ、学務委員会、教授会などで継続的に議論している。 • 教学 IR 機能を強化するために、職員を配置し、カリキュラム評価委員会にフィードバックする体制を強化している。 • 2023 年 2 月から「”日本一”の医師育成拠点創設基金」を設置し、医療人育成のための教育環境と体制の整備及び強化を図るための支援が集まり、現在、本基金による教育環境の整備を検討している。	
今後の計画	
• 現在進行中のカリキュラムの改定を進める。 • IR の技術を活用し、効率的かつ継続可能な学生の評価法を確立する。	

- 新しい基金を用いて、IR によってより効率的に教えることができる環境を整備する。

現在の状況を示す根拠資料

- 資料11 主要な教務関係委員会の議事録(医学科カリキュラム評価委員会議事概要)
- 資料20 学生・卒業生・教員アンケート結果
- 資料24 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム委員会内規)
- 資料44 教務関係委員会規則・内規(医学科カリキュラム評価委員会内規)
- 資料45 教務関係委員会規則・内規(医学科学務委員会内規)
- 資料56 医学教育センター設置要項
- 資料58 カリキュラム改変前の科目資料
- 資料59 新潟大学医学部医学英語カリキュラム資料
- 資料67 「”日本一”の医師育成拠点創設基金」「研究棟・講義室の改修整備に伴うご寄附」のお願い
- 資料68 前回受審時の新潟大学医学部自己点検評価報告書
- 資料69 新潟大学国立大学法人評価
- 資料70 新潟大学機関別認証評価